

科学的社會認識を育てる授業研究

I 主題設定の理由

社会科で指導する内容は、社会認識である。それを科学的に考えていくところに科学的社會認識がある。科学的社會認識を育てる過程において、事実認識、関係認識、主体認識がある。それぞれにどのような資料を使い、どのような手立てを講じていくかを研究することが大切である。単に知識を教え込むだけでなく、認識力をも養うことが社会科のねらいのひとつである。

「基礎・基本」の定着が重要視されている昨今、社会科において具体的にどのようなことを基礎・基本としておさえていくかを考えることが必要である。また、「楽しくわかる授業」を意識し、つくることによって関心意欲を高めていく。基礎・基本が習得され、ある単元で学んだことと身につけた認識力が他の単元にも応用できることで科学的社會認識が身についたと言えるのではないだろうか。

以上の考えを元に、上記テーマを設定した。

II 研究の内容

1 小学校部会

科学的社會認識を育てるために4つのサブテーマを設定した。「楽しい社会科授業の創造」「社会科における基礎・基本の定着」「資料を生かした社会科授業」「社会科の評価をどうするか」である。今年度は特に「資料を生かした社会科授業」に重点を置き、地域素材など大量の資料を、電子機器を活用して効果的に提示することを試みる。社会科指導主事も招聘する中で、それぞれのテーマにそった理論研究や授業実践を進めた。部会員全員がテーマに関わる研究をすることが大切であると考えて取り組んだ。

(1) 一人一実践を持ち寄り、テーマにそった研究を進める

(2) 臨地研修を、地域学習に役立てる

ア 日本銀行甲府支店（甲府市）

(3) 授業実践と研究

ア 小6 「文明開化でくらしが変わる」

那須栄樹 教諭（塩山南小学校）

2 中学校部会

「科学的社會認識」を育てるために、数年前から「社会科の基礎・基本」や「評価方法」などの研究を土台として、「資料を生かした授業研究」をサブテーマに設定し、生徒が生き生きと学べる授業作りを行う。

(1) 科学的社會認識を育てる手だては、それが育った生徒はどういう生徒か。

(2) 臨地研修を行うことにより、資料の教材化を図る。

